

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	36878
事業名	演劇公演支援費					
評価担当課	所属名	市)文化部 文化振興課				
	課長名	木戸 拓史	担当者名	平 将士、菅原 真	電話番号	011-211-2261
施策名	主	魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ● 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	広く市民へ優れた演劇の鑑賞機会を提供する。 (アクションプラン2019事業目標:「札幌演劇シーズン」年間来場者数16,000人)			
		長期	演劇の市民文化としての定着と札幌の新たな観光資源としての活用を図る。			
	取組内容	優れた演劇作品の再演を行う「札幌演劇シーズン」の開催経費の一部を補助することで、市民へ演劇作品の鑑賞機会を提供し、演劇のファン層を開拓(裾野の拡大)し、市民文化の振興と新たな観光資源としての活用を図る。 ①補助金(補助対象経費:会場費、物件費、広報費) ②事務費(札幌演劇シーズンに係る消耗品購入費)				
	実施結果	札幌演劇シーズン(補助金11,800千円)を開催 ・2021夏:5作品55公演3,071人 2022冬:5(3)作品25(23)公演1,524(1,127)人 ・年間来場者数4,595(4,198)人、前年比+365(+264)人 ※括弧内は、特別プログラムを含まない数字				
事業実施における工夫点	新型コロナウイルス感染対策に関する情報を積極的に周知し、市民が安心して来場できるよう工夫した。					
対象者	市民及び観光客	開始	平成24年度	終了	0年度	
関連法令・条例・要綱等	札幌市文化芸術基本条例					
他都市の状況	他都市においても、同様の演劇振興施策を実施。 (京都国際舞台芸術祭(京都市)等)					

## ◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	11,816	12,000	11,800	12,000	
うち特定財源	0	0	0	0	
人工	0.3	0.3	0.3	0.3	
人件費	2,160	2,160	2,160	2,160	
計(事業費+人件費)	13,976	14,160	13,960	14,160	
事業費の内訳	令和3年度決算	札幌演劇シーズン補助金11,800千円 ポスター掲示委託料16千円			
	令和4年度予算	札幌演劇シーズン補助金12,000千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	「札幌演劇シーズン」年間公演数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	65	100	80	99(R1同程度)	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	「札幌演劇シーズン」年間来場者数			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	4,230人	6,000人	4,595人	16,000人	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	B	札幌演劇シーズンを支援することにより、広く市民へ優れた演劇の鑑賞機会を提供することができたほか、どのように感染対策を行っていくか、劇団や施設の先行事例となった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、公演数の数や、感染拡大防止対応の客席制限があり、令和3年度は前年度に比べて、公演数や来場者数が若干回復したものの、新型コロナウイルス感染症拡大前の状況までは回復しておらず、チケット収入の減少も大きく、今後の継続的な事業実施に課題がある。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	B	札幌で生まれた優れた演劇作品の再演を行う「札幌演劇シーズン」は観光魅力資源としての活用が期待されており、広く市民や観光客をターゲットとして今後さらなる新規ファン層の開拓に取り組む必要があり、現段階での本市からの補助は適切である。新型コロナウイルス感染症の影響により観客数が減っていることから、今後は観客数の回復に向けて事業展開の工夫を図る必要がある。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	劇場や劇団との円滑な調整により、優れた演劇作品の鑑賞機会を提供し、多方面への広報活動、協賛企業獲得に向けた取組を効率的に実施することができることから、演劇関係者や民間企業等から構成される実行委員会形式での事業の実施が適切である。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに込えているか)	A	札幌演劇シーズン2022冬のアンケート結果では、上演された作品について「とてもよかった」「まあまあよかった」の合計がいずれも9割を超えており、優れた演劇作品の再演を行う「札幌演劇シーズン」の満足度は高い。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input checked="" type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	札幌演劇シーズンを通じ、市民文化への定着と観光魅力資源としての活用に努める。また広く市民や民間企業等の協力・協賛の獲得に努め、自立的かつ持続可能な事業運営の在り方を引き続き検討する。				
前回の評価	○ A    ● B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	感染対策に関する情報を積極的に周知し、市民が安心して来場できるよう工夫した。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	○ A    ● B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	市民へ優れた演劇鑑賞機会を提供することで演劇文化振興を図ることができた一方、新型コロナウイルス感染症の影響により、来場者数が大きく減少しており、収支の改善や来場者増に資する工夫が必要がある。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善    ○ 現状維持    ○ 休止・廃止 令和4年度に札幌演劇シーズン10周年を迎えたことを契機として、多くの市民に観劇してもらうことで、演劇のさらなる市民文化への定着を目的とし、来場者の回復に向けた周知活動等に力を入れる。			
	予算	○ 拡充    ● 現状維持    ○ 縮小    ○ その他		見直し効果額	0 千円
		事業内容及び規模を維持するためには、現状の費用負担は維持する必要がある。			